

第2部

水の声が聞こえますか？

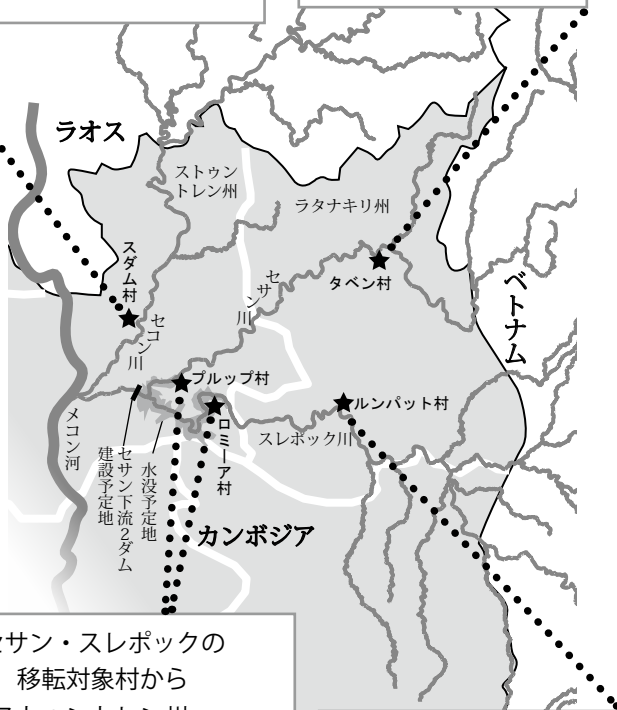
村びとへのインタビュ―

セコンの村から ～ストウントレン州～

セコン川上流のラオスでも、ダム開発は着々と進行している。村びとの話を聞き限りでは、セサン川やスレポック川ほどの大きな被害はまだ生じていないようだ。「川が少しずつ変わってきている」という声も聞かすが、上流のダムの存在は知られておらず、川の変化をダムと結びつけて考える村びとはいない。

セサンの村から ～ラタナキリ州～

セサン・スレポック・セコンの三河川の中でもっともダム開発が進み、深刻な痛手を負ったセサン川。セサン川が流れる2つの州のうち、ベトナムに近いラタナキリ州では、ダムの被害もより深刻だ。村びとは問題の解決を強く訴えている。



セサン・スレポックの 移転対象村から ～ストウントレン州～

国境から遠く離れたストウントレン州も、ベトナム側のダム開発の影響をまぬがれることはできない。そればかりか、こんどは、州内にあるセサン川とスレポック川の合流地点付近でも、ベトナム・カンボジア両政府が共同でセサン下流2ダムを建設しようとしている。立退きを強いられる村の人びとは、声に不安をにじませる。

スレポックの村から ～ラタナキリ州～

スレポック川でも、上流ベトナム側のダム開発が進み、セサン川と同じような問題が現れてきた。



ドゥー・ウイット さん

わたしは生まれも育ちもタベン村です。祖父や祖母、両親もみんなそうです。親はクルン族とブロー族です。ふだん使うのは部族のことばですが、わたしはクメール語（注1）の読み書きもできます。

1975年、ポル・ポトから逃れてベトナム

に脱出しました（注2）。この村の住民のほとんどは、ポル・ポトが来ると聞いて、国の外に逃げたんです。1979年には、すでに戻っていたストゥントレン州で、ポル・ポト軍と戦う兵士に徴用され（注3）、訓練を受けるためにベトナムのホーチミン市に派遣されました。そこで戦術・政

1952年、タベン郡タベンラー集合村タベン村生まれ。両親はクルン族とブロー族。兵士、警官を経て、今は漁業と農業を営む。近年は、村長、住民コミュニティ代表、長老グループのメンバーも務めた。6児の父。56才。

治・クメール語を2年間学びました。1981年にベトナムから戻ったとき、わたしは26才。まだまだ子どもでした。それから、兵士として戦場で6年戦って、兵役を終えたのは30代前半のことでした。そのあとはプリアビビア州で警察副署長を務めました。そしてこの村に戻り結婚したんです。

結婚してすぐの3年間、は、女房の両親と、そのあとはわたしの両親といっしょに暮らしました。両親が死んでからは自分の家を見て、今もそこで暮らしています。

女房はこの村の女です。なれそめを聞きたいって？

一目ぼれで、手紙を送ったんです。そうしたら返事が来てね。それから、よく彼女の家に会いに行きましたよ。彼女のどこが好きだったかですか？ はじめは顔、次に性格が気に入ったんです。家事もうまいしね。うん、今でもむかしのように愛していますよ。子どもは6人います。

上は26才で、下は3才です。

村に戻ってからは、農業と漁業で暮らしています。田んぼの米と魚は家族で食べる分だけ、チャムカ(注4)では、食べる分と売る分を作っています。米、なす、ココナツ、さとうきび、タバコ、パパイヤ、レモン、タンジエリン(ミカンの一種)を育てています。

川はわたしにとつて、とてもだいじな存在です。今でも、河岸で野菜を育てたり、魚ができたらと思います。水もきれいだっただけなのに、川は、わたしだけじゃなくて、村びとみんなが必要としているんです。

2004年までは一本の延縄(注5)で、家族を養うのに十分な魚が捕れたんです。延縄を夕方5時とか6時に川に仕掛け、真夜中に1度確認して、翌朝に引き上げるんですが、2004年以前は一晚で50キロも魚が捕れました。20キロもする大きな魚もたくさん捕れたんですよ。でも今じゃ、魚はほんとうに少なくなりました。1日中漁に行つて1匹も捕れないこともあります。食べるために市場から買うこともあるんですよ。川で網や延縄はもう使えません。なぜって、水位が急に上がったたり下がったりするせいですよ。延縄を水の中に仕掛けても、しばらくして見に行くと水面に浮かんでいることがあります。漁具は泥だらけになるし、いくつ流されて失くしたとか。舟も1隻失くしました。

水位が急激に変わるから、舟を岸に結ぶひもが切れるんです。

だからわたしはもう川で漁はしません。今年から(セサン川の)支流と池でだけすることにしました。わたしみたいに川での漁を止めた村びとは大勢いますよ。でも、池の魚も減ってます。洪水が起これば、池にも魚が増えるんです。2001年からまったく洪水がないんです。ダムのせいですよ(注6)。

1996年には、すごい洪水が村を襲いました。ヤリ滝ダムが壊れたんです。この村では3人溺れ死にました。牛も水牛も溺れました。村のあちこちが水浸しになって、わたしの家も床上まで水に浸かりましたよ(注7)。水の高さは4、5メートルはあったね。洪水は3、4日続きました。村のみんなは米と塩を持つて丘に避難しました。戻つたら、家は壊れている、道具はなくなっている。野菜は全滅。にわとり、アヒルもいなくなっていました。

水位の変動は、今年になって、少しはましになりました。ベトナムがダムの放水の仕方少しは気をつかいはじめたのかもしれない。大規模な放水のときは、3日前に通知が届くようになりました。

それでも川はおかしい。昨日も朝は水位が低かったのに、午後には高かった。1日で2メートルぐらい違うこともある。これじゃ(河岸で)

野菜も育てられない。むかしは、雨が降れば水位が上がる、雨が止めば下がる。そんなふうでした。でも今じゃ雨に関係なく上がったたり下がったりします。ベトナム国境近くでは、1、2メートルの高波が出ると聞いています。

しょっちゅう水位が、あれよあれよと変わるから、河岸が崩れてきています。毎年2、3メートル分の土が川に流れ込みます。河岸の下部の土が洗い流されて、それから上部の土が崩れ落ちるんです。わたしの家はここから1キロくらいのところにあるんですが、家の近くはひどい崩れ方をしている。このまえ、豚が川沿いで餌を探していたら、崩れてきた土砂で生き埋めになって。豚は死にましたよ。このまえの乾季には、村の家畜が10頭死にました。数日前にも1頭溺れ死にました。村では、家畜からなるべく目を離さないようにしてはいたんですがね。

水質も悪くなりました。むかしは水位が低いときは澄んでいたのですが、今じゃずっと濁っています。水が悪いのは確



「この木も今年は川に倒れる込むだろう」とウィットさんは言う。



上・水辺で涼む水牛。
下・村の祠（ほこら）

かですよ。もう村の人間が川の水を使うことはほとんどありません。川で水浴びをすると体がかゆくなりますし。NGOがポンプ井戸をくれたので、みんなそれを使っています。乾季に家畜が川の水を飲むと病気になります。下痢したり、腹が腫れたり、湿疹が出たり。

野生の動物も減りました。例えば、砂地に卵を産む大トカゲがいるんですが、水位が上がったり下がったりするから卵が流されるんです。鳥も少なくなりましたよ。ぱつと思いつくだけでも、トリードイト、ダツ、アルンベイ、トアングレイ、カアーマングなどは、ほとんど見なくなりました。この名前はクメール語じゃないですよ。わたしの部族のことばでそう呼ぶんです。この鳥たちは地面に巣を作るんですが、今ではどこに巣があるのかわたしにもわかりません。

魚の棲みかもなくなりつつあります。岩の穴や川の木の穴、淵とかが、砂と土で埋まってます。村の近くには淵が3か所あるんですが、以前は深さ7メートルから10メートルはあった。そ

とか、川沿いの木の実とかが、河岸が崩れてやられているんです。

川が変わってしまったことは、村の文化や伝統にも影響をおよぼしています。例えば、川を守ってくれる精霊に感謝の祈りを捧げる儀式があつて、毎年2月ごろに砂州で祈るんです。でも今では、乾季でも砂州は水の中です。精霊は今でもそこに住んでいますよ。でも、もう儀式はできません。だから、村びとたちは病気になると、砂州の代わりに川べりで祈ることにしているんです。

ほかにどんな儀式があるかつて？ いろんなのがありますよ。ブロー族とクルン族に先祖代々伝わる伝統なんですけど、例えば、水牛を生贄として捧げて祈ったり。これは川と家の精霊に感謝する儀式です。ちょうど2日前にこの儀式をしたんですよ。田植えの前には、田んぼの精霊に祈り、豚かにわとりを捧げて、お祭りをします。収穫のあとにも、もう1度。それからどの村にも1か所、神聖な場所があります。この村では吊橋の脇にあります。

れが今じゃ2メートルぐらいいかない。むかしは川が全体的にもっと深かったんですよ。魚の餌も減ってきています。虫

ダムの話ではないですが、2001年から、密漁がはびこるようになりました。電気ショック（注8）や巨大な網を使ったり、淵に手榴弾を投げ込んだりして、魚を根こそぎ捕るんです。ラオスやタイから、魚を殺す毒を売る商人もやって来ます。川にこの毒薬を投げ入れると、魚

（注1）カンボジアの公用語。先住少数民族は、それぞれのことばで育ち生活するので、みんながクメール語を自在に使えるわけではない。

（注2）1975年4月、ポル・ポト率いるクメール・ルージュは、首都プノンペンに進攻し、当時のロン・ノル政権を倒した。クメール・ルージュは極端な民族主義的共産主義政策を採用し、多くの国民に農村での強制労働を課した。虐殺・肅清が横行し、病気・飢餓をあわせて、1979年1月に政権が崩壊するまでに、約170万人の人びとがいのちを落としたといわれる。

（注3）1978年末、ベトナム軍がカンボジアに侵攻。翌1979年1月には、プノンペンを攻略。クメール・ルージュはタイ国境近くまで駆逐され、カンボジアに親ベトナムのヘン・サムリン政権が樹立された。しかし、1982年には、ヘン・サムリン政権とポル・ポト、シハヌーク、ソン・サン3派との間で内戦が勃発。パリで和平合意が成立し、カンボジア内戦が終結したのは1991年のことだった。

（注4）陸稲、バナナなど作物栽培のために行うローテーション方式の焼畑を指す。

（注5）はえなわ、漁具の一種。1本の幹繩に「延繩」と呼ぶ多数の枝繩を付け、枝繩の先端に釣り針を付ける。漁場に仕掛けたあと、しばらく放置して延繩を回収する。

（注6）自然の営みの重要な役割を果たしてきた。一方で、ダムの放水は河川の自然な流れを乱し、水位の異常変動や不定期な洪水の原因となる。

（注7）川沿いの村々では、ほぼ全戸が高床式で、居住部分とは地面から2メートルほど高くなっている。床下は漁具などの道具置き場や作業場として使う。

（注8）変圧器につないだ自動車のバッテリーなどで、無差別に魚を感電死させ捕まえる。



川と森林と土地を奪われて、わたしたちはどうやって生きていけばいいのでしょうか？

が死んで川の表面に浮かびます。違法漁業をするのは、警察や地元の役人です。彼らは金銭的な価値の高い木を切ったり、森の鹿や孔雀（くじゃく）、水牛、象、虎を銃で撃ち殺したりもします。象や虎は、1991年ごろは見ましたけど、今ではほとんど見ることはありません。

今、村では、みんな、土地の問題で頭を悩ませています。コンセクション（利用権）を手にした企業が、この村の近くにもやって来たんです（注9）。村のコミュニティ森林（注10）の区画とコンセクションの区画が重なっているんです。

村の人間はむかしから森を大切に、ラタン（藤）、木の葉っぱ、竹を家で使ったり、トカゲや鹿、野豚などの動物を食べたりしているんですが、今は森に行くことができないので、ほんとうに困っています。森でなにか採ろうとすると、コンセクション企業ともめるんです。今年の3月から4月、コンセクション企業が森の木にペンキで印を付けました。伐るためです。よその村の近くでは、もう2、3ヘクタール（2、3万平方メートル）の森を電動ノコギリで切り倒してしまいました。村では「（フン・セン）首相にこの問題を伝えよう」と言って、州政府の事務所に行きました。書簡も送りました。でも、なしのつぶてです。

NGOに助けてほしい。お願いだから、助けてほしい。川と森林と土地を奪われて、わたしたちはどうやって生きていけばいいのでしょうか？ 住む場所もなく、川からも森からもなにも受けとることができなくなる。このままじゃ首をくくるしかない。村には、「家族を殺して、自分も首を吊って死ぬ」と言う人までいます。

今年、わたしにとっても村の人間にとっても、難しい年です。川と森の問題の上に、雨が降らなくて、米はやられてしまったし、物価も上がっています。それなのに、またダムができるんです！ セサン川沿いの5つの村は、ストウントレンの（セサン下流2）ダムに反対する

ことをもう決めました。日本とベトナムと中国がいつしよになつてこのダムを造ると聞いてます。外からやってくる人たちは、カンボジアを破壊して、電気を作つて、それを自分の国に持つてかえるなんてことをするべきではない。ただ、ストウントレンのダムを造りたいのはカンボジア政府もおなじなんです。政府は「絶対造る」と言っています。

上流にベトナムのダムがあつて、下流にもダムができるわけです。これでスレポック川とセサン川には、魚が完全にいなくなるでしょうね。魚はダムを泳いで突つ切れることはできませんから。話が長くなりました。アイラー・ハツサイ！
クルン語で「ありがとう」って意味です。

（注9）カンボジア政府は、地元住民が占有・利用しているか否かにかかわらず、一地域の土地を区分し、その利用権（コンセクション）を特定企業に売りわたしてしまふ。これによって、地元住民の人権が侵害されたり、環境が破壊されるなど、多くの深刻な問題が発生している。
（注10）村ごとが共同で管理する森林。

もつと知りたい！！
村人の要望、関係者の対応 P.76

もつと知りたい！！
メコンの魚の回遊 P.48

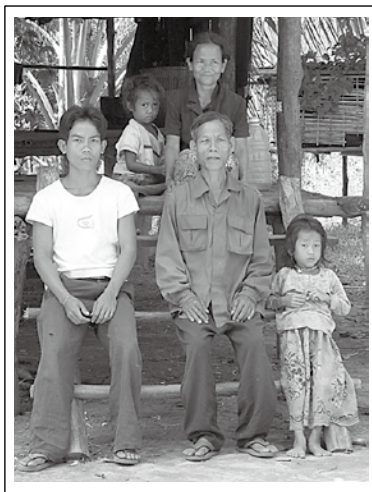
もつと知りたい！！
三河川のダム開発 P.50

もつと知りたい！！
セサン下流2ダム P.54

もつと知りたい！！
カンボジアへの影響
〜セサン川の場合〜 P.59

もつと知りたい！！
ヤリ滝ダム P.51

- ①名前
- ②年齢
- ③民族
- ④職業
- ⑤居住地



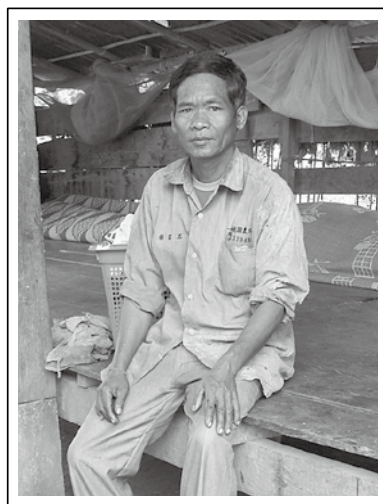
①プロナン・ティエンさん（前列中央）②年齢不詳 ③ブロー族 ④農業・漁業 ⑤プエンサイ郡カチョン集合村カリム村

10年前とくらべて、川はすごく変わったよ。水位も上がったりがったり、ふつうじゃない。川辺で育ててる野菜は、ほとんど全滅だよ。河岸が崩れ落ちて、食べものや薬に使っている木が川に倒れ込むときもある。乾季は水がすごく汚れていて、川の水を使うのは危ないんだ。



①ローマム・メリさん ②55才
③タムブアン族 ④農業・漁業
⑤オーヤダウ郡セサン集合村パウル村（ベトナム国境近く）

ぼくたちの文化にとって、川は重要なんです。ぼくたち先住民は、川の近くに住むのが好きだし、川の精霊をうやまう。特に川の深いところや、ワニに宿る精霊たちをたいせつにしているのです。生まれたときからここに住んでいますよ。でも、今のぼくたちは、いつダムが壊れるかとおびえながら暮らしています。だから、安全な場所に住むといって、村びとたちは、どんどん山間部に移っていきます。



①コー・ヴィックさん
②46才 ③ブロー族
④農業 ⑤タベン郡タバ
ンラー集合村タバ村

セサン川は、わたしのいのちです。村にとっても川は村と切り離せない存在です。川の水は、生活のほかに、いろいろな儀式にも使います。先祖や精霊に祈ったり、誓いをたてるのです。例えば、村でいさかいが起きて、どっちが正しいことを言っているのか判断しなければならぬとき、争っている者が同時に川にもぐり、息がもたなくて先に上がってくる方が嘘をついているのです。これは、川の精霊が不正直な人にそうさせるからです。

わたしはすべてのNGOに、セサンの被害について知ってもらいたい。そしてわたしたちを助けて、セサン川についてもっと心をくだいてほしい。そうお願いしたいです。いつダムが壊れるか、倒れるか。そして、わたしたちを殺しに、わたしたちが持っているものすべてを破壊しに来るのでは、と心配です。



①ウイ・ネーンさん ②71才
③ラオ族 ④農業・漁業 ⑤ブレ
ンサイ郡パン集合村パン村

この村で生まれ、ずっとここに住んでる。子どももここで6人育てたよ。川はすぐたいたいせつ。漁をして生きてるからね。毎日、川に漁に行つて、水を使っているよ。でも漁は今、難しいねえ。10年前はすぐに3、4キロの魚を捕まえたもんだよ。でも今は無理だね。夜、川に網を仕掛けて朝引き上げるんだけど、捕れるのは200グラムぐらいだね。1キロはとても無理。家族が食べる分にしかない。なにも捕れないときもある。

むかしはね、川は自然に流れていた。家族を十分に食べさせられない、なんて心配はなかった。ベトナムがダムを造つてから10年以上経つ

①ウク・ノームさん ②57才 ③ブ
ロー族 ④農業・漁業 ⑤タベン郡タ
ベンクロム集合村コーボン村



4人の子を育てているよ。女の子が1人、男の子が3人。あたしが生まれたのもこの村よ。

朝起きたら、子どもたちにご飯をつくつて、川に水を汲みに行く。それから畑を耕すために木を切つたり、村や畑の柵を作るために竹やラタン（籐）を集めたり。それに野菜を育てている。雨季のときも乾季のときも、食べるものに困らないようにね。

あたしが今抱えている問題？

まず、刺し網や延縄が洪水で流されること。次に家畜が川で水浴びしたり、水を飲んだりすると病気になつちやうこと。それから洪水が起こるたびに、たくさんの場所が河岸が崩れ落ちること。だから河岸で野菜を作ることができなくなったよ。あと、川を舟で移動しているときに水位が急に上がった、高い波が来ること。舟が流木にあたって、沈んじゃうんだ。洪水がこわくて砂洲の上でゆっくりできないし。だから漁に出るときは睡眠不足になる。伝統的な行事や儀式もできなくなったよ。

シン・ トーンラオさん

1958年、ルンパット郡チェイ・ウードム
集合村ルンパット村生まれ。ラオ族。農
業と小売業を営むかたわら、ルンパット
郡のコミュニティ代表を務める。50才。

生まれたときから、この村に住んでるよ。学
校は戦争のせいで、8年生までしか行けなかつ
た。学校では、作文の授業が一番好きだったな。
動物や人、景色なんかを描写するのが楽しかつ
た。わたしは記憶力がいいの。なんでも2度読
めば、だいたい覚えられる。もし勉強を続けら
れたら、ビジネスウーマンになりたかったよ。
1974年に村の保健係になって、ポル・ポ
ト時代もその係を続けた。この村は、ポル・ポ

トに移住させられなかったんだよ。ポル・ポト時
代に人を助けることができたのは、人生で一番
誇りに思うことのひとつ。たくさんの人が保健
施設に来て、みんなご飯を必要としていた（注
11）。でもご飯はわずかしかなくて。だからいつ
もオンカー（注12）がご飯を余分に持ってくる
よう要請を出した。5人しか病人がいなくても、
8人分要請するというぐあいに。「誰にも言っ
ちゃだめよ。オンカーにばれたらわたしが殺され
る」って、みんなに口止めした。それは泥棒行
為だったかもしれないけれど、正しいことだっ
た。だから今でも村びとたちには尊敬されてい
る。わたしはいつも自分の行いに気をつけてる
し、過去の行いについても自信を持っている。
結婚したのは20才のとき。夫は兵士だった。
結婚式は、4組で同時に挙げた。翌1979
年、カンボジアはポル・ポトたちから解放され
て、わたしも保健係を降りた。たいへんな仕事
だし、勤務時間が長いからね。それで駄菓子を
売ったり、家畜を育てるようになった。
1995年、わたしが37才のとき、夫が死
んだんだ。それからずっと、7人の男の子を女
手ひとつで育てている。そりゃあたひへんだよ。
1997年から2000年まで、ユニセフが
支援する識字教育の先生もしていた。でもお金



2005年のスレボック川。右手前の河岸ではトウモロコシなどの野菜が育てられていた。

は家族を養うには足りなくて、辞めて、また駄菓子や生活用品を売るようになったんだ。

スレボック保全ネットワークに参加したのは、2005年のことだよ。今はルンパット郡のスレボック・コミュニティの代表を務めている。「コミュニティ」というのは、行政じゃなくて、NGOの支援を受けたふつうの市民の集

まりだよ。

スレボック川流域には、2郡で7か村あるんだけど、それぞれの村で住民コミュニティの代表を選出している。そして村の代表の中から、集合村レベルの代表を1人、郡レベルの代表を2人、選挙で選ぶんだ。郡の代表を選ぶときは、地元当局や村長、集合村長、郡長も入れて、約

40人が選挙に参加する。選挙で選ばれた代表と長老グループが郡を代表しているんだよ。

コミュニティ代表の仕事のひとつは、情報収集と普及。村びとたちが抱えている問題を聞いて、それをもとに報告書を書いて、集合村や郡の事務所、NGOに送る。それから郡レベルのコミュニティ会合や月1回のNGOとの会合で話し合ったり、そこで聞いたことを村の人たちに伝えたりもする。こうして川の問題を解決しようと働くの

(注11) ポル・ポト政権下では、過酷な強制労働が課せられた一方で、共同炊事で管理した乏しい食事しか与えられず、おびただしい数の人びとが衰弱、餓えによっていのちを失った。

(注12) ポル・ポト政権の下部組織のこと。オンカーがすべてを決定し、国民はオンカーに忠誠を尽くさなければならず、反抗する者は容赦なく殺害された。「オンカー」は、クメール語で「組織」の意味。

は、いいことだよ。村の人たちといっしょに仕事して、解決策を見つめることに貢献できる。情報を伝えたり、報告書を書いたりといった具体的な行動をとれるのもうれしいね。

反対に、この仕事をしていていらいらさせられるのは、地元当局の対応だね。村びとを助けようという強い意志が感じられないときは腹が立つよ。報告書を書いても書いても、問題は解決されないままだ。

川はわたしたちの生活と文化にとって、ほんとうに重要なんだ。川は、村に住むわたしたちのいのちだよ。わたしたちは、川に頼って生活している。川なしには生きられないんだ。川の恵みが少なくなれば、わたしたちの生活も収入も減ってしまう。文化も、お祭り行事も、川がなければありえないんだよ。

わたしはここに長いこと住んでいるから、川のことにはよく知ってる。ふつうだったら、乾季の水は澄んでいるし、流れも自然なんだ。スレボック川が一番きれいな時期なんだよ。水質について心配することもない。川の水は、きれいで



だったんだよ。小さいころから、いつも川の水を使っていた。雨季に雨が降れば、水位が高くなって水は濁るけど、雨が止んだらまた水位は下がって、水は元のとおり澄んだんだ。今はそうじゃない。

それに、むかしは、今みたいに、毎年のように洪水は起こらなかった。2005年よりまえは、洪水があっても、気に留めることはなかった。大きな洪水は、2、3年おきくらいにしか起こらなかったし、そんなにひどくなかったもの。1969年と1973年にひどい洪水があったけれど、それくらい。

でも2005年には、ひどい洪水が3度もあった。村は文字通り、水の中に沈んじゃった。水位は、立ち上がってもわたしの頭をゆうに超えるほどだった。4、5日おきに水位が上がって、それから下がった。田んぼもめちゃくちゃ。2006年は洪水が2度あった。2005年よりもひどかったよ。2007年には、もつとひどい洪水が1度あった。

しまったよ。ぜんぶで4、5匹しか生きのこらなかった。死んだ豚を家に連れてかえって、しばらくのあいだ泣いたよ。もちろん、田んぼは全滅だったし、にわとりもひよこも流されて行っちゃった。

わたし自身もたいへんだつたよ。市場に行くこともできなから、ご飯がなくて、缶詰を食べてしのいだ。水位が2日間とても高くてね。村びとたちは助け合って舟で高台に逃げた。地元当局も大きな舟を出して助けてくれた。わ

わたしは、親豚と子豚をあわせて12頭飼ってたんだけど、どうしていいかわからなかった。舟を持ってないから高台に連れていけないくてね。子豚は死んで

たしも高台で一晩過ごしたよ。お年よりや子どもは2、3日避難してた。

村びとたちは、洪水はベトナムのダムの子供だと思ってる。洪水のまえの日、村長が、「洪水が来るから気をつけるように」って、みんなに伝えたんだ。それを聞いて何人かは高台に避難したけど、準備する間がなかった人もいる。だって、「明日、大洪水が来る」って、今日聞いたって、ねえ。村長は洪水の情報を集めた村長に聞いたようだよ。集合村長は郡長に聞いたんじゃないかな。



2006年8月、大洪水がルンパットを襲った。家屋は水の下に沈み、田畑は破壊された(3SPN提供)。





今年も洪水が怖い。
逃げる用意はいつもしているよ。

2005年の洪水のときは、何の警告もなかった。2006年の洪水のときは、ダムの放水についてラジオで聞いたっていう人もいる。でも、聞いたのは洪水が起ったあとのことだった。それでまた来るのかと怖くなって、高台に戻った人がいた。

2004年の乾季は、水位が低くてね。岩がたくさん水面に出ていた。今まで島なんてなかったところにも、島ができてた。舟で移動もできなくて。あんなことは、それまではなかったねえ。村では乾季に貝を採ったりするんだけど、あの年は全滅だった。貝は岩に張りついているから、乾燥して死んだんだね。魚もだよ。あんなふうに水が少ないと、川は池になっちゃってさ！
魚は泳いで逃げられないから、電気ショックでぜんぶ捕まえる人がいた。あの年には魚が大

打撃を受けたと思うよ。
2005年は、水がそこそこあって、こんどは急に上がってきた。異常だったよ。クメール正月（注13）のときも水位が高くて、バゴダ（仏塔）に持っていく砂を集めることができなかつたから、伝統の儀式ができなかつたんだよ。

毎年、米を収穫したあとは、河岸で野菜を育てていたんだけど、2005年からできなくなつた。11、12月は、水位が高くて、野菜を育てる土地が水浸しになつたから。これでたくさんの人が生計手段を失つた。

魚も減つてきた。村の人は食べるのにも困つてきた。売るほど捕れないし、買おうとすると高いし。2005年ごろの魚の値段は、1キロあたり、だいたい3000から5000リエル（80円から130円）だったのに、今じゃ1万2000リエル（約320円）もする。米も値上がりしてる。かつてはキロ当り1000リエル（26円）だったのが、今は3倍もするよ。なんでかわからないけど、カンボジア中で値上がりしてるそうだよ。

水位が上がつたり下がつたりするから、

2005年くらいから河岸が少しずつ崩れてる。川から2、3メートルも崩れ落ちたところもあるよ。崩れるのはだいたい雨季のことだね。2005年と2006年は、川の水が真っ赤になつた。ビンに入れて2、3時間置いとくと、底に赤い土がたまつた。それでも、まだ水の色は赤いままだつた。川は今でも赤いけど、村では川の水を使っているよ。最近では煮沸してから使うけどね。2005年から、特に乾季に水位が上がつたときに、子どもが川で泳いだり、水浴びすると、体がかゆくなるって言う人がいる。わたしは井戸水を使う。でも井戸を持つていない人や漁師は川の水を使っている。

NGOには、わたしたちがこの問題を解決できるよう支援してほしい。どうかわたしたちを助けて。支えてください。

（注13）カンボジアの正月。4月中旬に祝う。

もっと知りたい！	カンボジアへの影響 「スレポック川の場合」	P.68
もっと知りたい！	村人の要望、関係者の対応	P.76
もっと知りたい！	セサン・スレポック・セコン保全ネットワーク	P.79

①名前 ②年齢 ③民族 ④職業 ⑤居住地



①ブンタン・チャンさん
②68才 ③ラオ族
④農業・漁業 ⑤ルン
パット郡チェイウードム
集合村ルンパット村

漁をするかつて？ わたしは漁師よ。朝

と晩、日に2度川へ漁に行くの。刺し網や釣り糸、仕掛けも使うよ。一晩で10キロから14キロは捕る。いくらかは自分たちで食べるし、あとは売る。家族を養うのに充分なだけは稼いでる。子どもが6人いるの。3人は女の子。1人は死んでしまった。

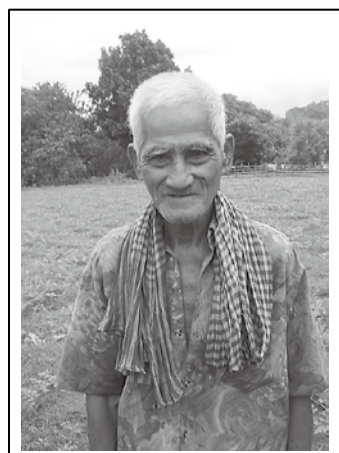
でもここ数年、川は変わったね。今までは、洪水が起こるのは4、5年に1回だったし、長く続かないから稲も平気だったの。それに洪水が田んぼの虫を洗い流してくれたから、田んぼにとつてもよかったのよ。でも今は洪水がしょっちゅう起こって、田んぼや畑、家畜や家財をだめにする。川の水は、雨季も乾季も濁って、使えなくなつた。乾季の方がまだましだけど、川で水浴びはもうしない。肌がかゆくなるから。飲み水や水浴びには雨水を使ってるわ。

おれは漁師だよ。漁以外にも、いろんな目的で川を使わせてもらってる。野菜を作ったり、舟で移動したりさ。川はおれたちの文化と伝統にとって、すごく重要なんだよ。灯籠流しとか、仏塔に砂の山を作るために砂を集めたりね。毎日やっていること？ 畑の草

取りをしたり、大豆を育てるために畑を耕したり、柵を作ったり、さとうきびやバナナの木を育てたり、漁に使う網を作ったり、直したり、家畜や田んぼの世話をしたり、刺し網や延縄を仕掛けたり。おれが考えるに、川は、おれたち村びとみんなの生計手段の基礎だね。川にすっかり頼ってるから、川なしじゃ生きていけないよ。



①タイ・ライさん ②76才
③ラオ族 ④農業・漁業
⑤ルンパット郡チェイウードム
集合村スレポック村



①トゥン・ソンさん
②76才 ③クメール族
④農業・漁業 ⑤ルン
パット郡チェイウード
ム集合村ダイロー村

1964年から川の近くに住んでいます。子どもが10人いて、今はそのうち2人を養っています。川はともたいたいせつです。なぜつて？すべてにおいて頼りきっているからです。魚も捕れますし、食べるため、売るために野菜も作れます。家畜も育てられるし、川辺で野草や野菜を摘むこともできます。

今、川の様子が大きく変化してきています。水は濁ってますし、水位が急に変わって、予測することもできません。2004年から2007年の雨季は、洪水ばかりでした。1年に2度も、3度も洪水があつて、田んぼも畑もだめになった年がありましたよ。乾季には川が干上がりました。淵はすごく浅くなつて、川底の砂があらわになりました。河岸が崩れたところもたくさんあります。川の恵みが失われてきてるんです。

川は、わたしのいのちだと思っています。川から離れることなどできません。

セサン・スレポツクの移転対象村から（ストウントレン州）

10人家族です。両親と妻、息子、娘と暮らしています。両親は家事を、息子は畑を手伝ってくれます。みんなこの村で生まれました。

田んぼとチャムカを耕しています。チャムカでは、米、バナナ、ココナツなどを作っています。漁は家族で食べる分を捕るだけです。

森には月に1、2度、いろいろなものを採りに行きます。家族のだれかが森に行るときは、のこりの者が全員で行いに気をつけないと森にいる者に悪いことが起きます。待っている者たちは、喧嘩をしてはいけなし、家から遠く離れてもだめです。川に行くときもおなじです。1回の漁で1週間から10日家を空けますが、家族がまちがった行いをする、事故が起こつたりします。村にはそういう例がたくさんありますよ。

これは、精霊の業（わざ）です。わたしは見たことはありませんが、祖父たちから教えてもらいました。精霊が川に宿っているのです。

木や森の色があざやかな5月ごろの川

を見るのが好きです。その年で1番目、2番目に降った雨で水位が上がると、淵にいる魚がよるこんで出てくるので、漁もしやすい。川はきれいで、魚もうれしそうだし、漁師もうれしくて、みんながしあわせな時期ですね。

しかし、今の川はむかしとちがいます。特に4月と5月におかしくなります。4月は水がなまあたたかかった。1993年よりまえは冷たかったのですが。特に乾季の間は、水を飲む人も家畜も病気になることがあります。

魚、野菜、きのこ類はとも少なくなりました。捕れる魚の量ですけど、むかしは1回の漁で10キロぐらい捕れたのが、今では5キロくらいでしょうか。だいたい半減ですね。なにも見つかからないときもあります。

水の流れも変わりました。漁に行くとき、はじめのうちは水位が低いのに急に高くなることがあります。そんなときは漁具が流されて、なくしたりもします。

それに、川の岩がむき出しになるので、きのこが生えなくなりましたね。川辺の野菜も減りました。わたしが15、16才のときは山ほどあったのですが、川の淵も浅くなりました。

2001年と2002年だったかなあ、洪

リー・ンバン さん

1968年、セサン郡ブルップ集合村ブルップ村生まれ。クメール族。農業と漁業を営む。40才。



水が起こりまして。わたしの家は、川からだいぶ離れているのですが、床下まで水が来ました。あんな遠くにあるヤリ滝ダムですら、こんなにも川の姿を変えて、問題を起こすんです。こんどの（セサン下流2）ダムが近くにできたら、どれだけ変わるんでしょうか。ここから5キロくらいのところにできるかもしれないんですよ。なにがどうなるかまったくわかりません。村では、魚や森の精霊、淵、わたしたちの生活や文化がどうなるか、みんな心配しています。立ち退きについても不安です。

補償には同意していません。わたしの家は大きいし、川に近くて、水を汲みに行ったり、漁をするのに便利なんです。川では石を使って、洗濯もできます。むかしからここでずっとしあわせに暮らしているんです。だから、同意しませんでした。

わたしたちはここでしあわせに暮らしているんです。家や井戸は、別の場所に建てなおせたとしても、わたしたちの心は何世代もまえからここにあるんです。

わたしたちの今の暮らしは、こんな感じですよ。まずお湯を沸かしておいて、30分だけ漁に行く。捕まえてきた魚を沸かしておいたお湯で料理して食べる。こんな暮らしがなくなってしまうのです。どう補償してくれるんでしょうか。ここを引きはらうのは悲しい。補償があったと

しても、ここを引越すのは嫌なんです。たぶん政府や企業は、わたしたちをここから追いたてて、わたしたちは嫌々ながら従うことになるんですよ。もし寺もチャムカもすべて補償してくれたとしても、わたしたちは今のままが一番いいのです。もし学校や耕作用の土地をくれないのであれば、引越すことを断固拒否します。補償内容はまだ知りません。ベトナム人の調査団が3月と4月にこの村にも来ました。資産について聞かれた村びともいれば、なにも聞かれないまま、なにかの情報をノートに書き込まれた人もいます。聞いた話では、4か所の集合村が水没し、2214世帯が移転させられるそうです。

セサン川沿いの村々に住む人びとは、政府にダム建設を止めてほしいと思っています。どうすればいいんでしょうか？ あなたNGOでしよう？ どうすれば建設を止めてくれると思いますか？ 村びと全員で手紙を書いたらどうでしょう。どう思います？ 止まると思いますか？

- もつと割りたい!!
セサン下流2ダム
P.54
- もつと割りたい!!
ヤリ滝ダム
P.51
- もつと割りたい!!
カンボジアへの影響
セサン川の場合
P.59



ブルップ村の様子。川沿いに家が並ぶ。



パウ・マイ さん

1966年生まれ。ラオ族。セサン郡ブルップ集合村ブルップ村在住。かつては兵士、警察官を、今は農業を営む。最近は、ボランティア活動にも精を出す。42才。

10ヘクタール（10万平方メートル）の稲がだめになりました。稲は5日以上水に浸かると死んでしまいます。

このあいだの洪水では、森の精霊を祭った祠（ほこら）が壊れましてね。そういうことがあると、村びとたちの信仰心が損なわれます。

移動にも支障がでます。ストゥントレンの町まで舟で1時

農業をしています。息子が2人、娘が2人います。妻のことは尊敬してますよ。ぼくたちの愛は、セサン川の流れのように新鮮なんです。はは。もちろんヤリ滝ダムができるまえのセサン川の話ですけど。

ダムができて川はおかしくなりましたよ。水が悪くなりましたね。飲むとお腹をこわしたり、いろいろ問題が起こります。浴びると体がかゆくなるしね。牛や水牛もそうです。ぼくも漁に行つたとき、水を煮沸できなかつたのでそのまま飲んだら、あとで下痢をしました。

経済的な問題も出てきています。捕れる魚が減れば収入も減る。それに漁具が流されたり、病気になると医者や薬も必要ですから、出費が増えます。洪水で仕事ができなくなることもあります。2001年には、洪水が15日も続いて、

聞くらいなんですが、往きはふつうに行けても、帰りは水位が低すぎてにっちもさつちもいかなることがある。時間とガソリンを無駄にします。

ポール・ポト時代は、ぼくの人生で一番苦しい時期でしたが、ヤリ滝ダムの問題もつらいですよ。村のみんながたいへんな思いをしますから。

1979年、川に漁に行つたときのことをなつかしく思い出します。淵はすごく深かった。手を水に入れると、魚が跳ねて、手を飛び越えました。それぐらい魚がたくさんいたんです。野豚とか鹿とか、動物が水を飲みに来る姿もよく見かけました。今は川に手を入れても、なにも起こりません。昨日は一晚中漁に行つて、とれたのは3匹だけです。

こんどできる（セサン下流2）ダムのことは、ほんとうに心配しています。わたしたちのいの

ちの問題です。もし決壊でもしたら、ぼく一人だけじゃなくて、お年よりから子どもまで、村びと全員が一度に死んでしまう。ダムの近くに住んでるんですから。このことをみんなに伝えて、NGOや水資源局とも協力しながら、ベトナムに働きかけたいと思います。

ダムができることになったら、この村から引越すかつて？ いったん政府がこうすると決めたら、ぼくらは従うしかない。補償交渉ががんばるしかないですね。移転地には、道路、学校、井戸、病院など整備が必要です。農地、宅地、木、水牛や牛がのんびりと過ごせる空き地も。最近ではコンセツションのせいで、（以前は放し飼いだつた）牛が、自由に歩きまわれなくなつて、村びとたちは、牛の世話にけっこうな時間を使っているんですよ。牛もひもでつながれて、不機嫌そうです。それからいせつなのは、村びとが受けた経済的損失への補償です。この村の住民の仕事は、森林、水、漁、米など、どれも自然と深い関係のあるものばかりです。代わりになるものがないと生活することは不可能です。

もどきたい! カンボジアへの影響
セサン川の場合

もどきたい! ヤリ滝ダム P.51

もどきたい! セサン下流2ダム P.54

この村で、生まれ育ったよ。祖父母も親もそう。今は家族9人で暮らしてる。子どもは上が16才で、下が6才。男の子を6人産んで、やっと娘を授かったんだ。人生で一番うれしかったことだね。子だくさんだけど、夫とわたしだけでがんばって養ってるんだよ。両親はもう死んでるからね。魚と畑で生活してる。畑では米、トウモロコシ、芋、野菜を作ってるよ。自分の家で食べる分だけね。

ふだん一日、なにをしてるかって？ 朝は5時半に起きて、お湯を沸かして、子どもにご飯をつくる。お皿を洗って、家のそのうじ。毎日、娘を500メートル先の学校に送りとどけ、それから子どもに手伝ってもらって、川で水汲みをする。川の水は飲むよ。煮沸してからね。ヤリ滝ダムができてから、そのまま飲むと下痢をしたり、目が赤くなったり、皮膚の病気になったりするからね。それから、川で洗濯をして、2匹の豚、にわとり、アヒル、牛、水牛に餌をやる。田ん

ライン・ウイアン さん



1965年、セサン郡ブルップ集合村ブルップ村生まれ。クメール族。農業と漁業を営む。副村長。43才。

ぼの手入れもする。田んぼは家から500メートルくらい離れたところにあるんだ。それから、家族の分までお昼ご飯をつくって。また、食器を洗うでしょ。12時から1時間くらい昼寝しま

すよ。昼寝のあとはチャムカで働く。帰ってきたら晩ご飯をつくって、そうじして、子どもの勉強を手伝う。みんな成績は悪くないよ。それから愛しの夫といっしょに寝ます。はっはっは。

わたしは漁はしない。けど、子どものころは魚を捕まえて遊んだ。あのころは魚がたくさんいてね。浅瀬に追い込んで手で捕まえたんだ。今でもわたしの一番の財産は川の恵みだと思ってるよ。

セサン下流2ダムのことは、今年になって聞いた。まず心配に思ったのは、事故が起こるんじゃないかってこと。今は、そうだねえ、魚がいなくなるのが、一番心配。上流の人たちがダムで苦しんでいるのを知ってるからね。ただただ、もう心配だよ。

新しいダムを造るから、この村は引越せって言われてる。補償について考えなくちゃね。でも、あたしたちは川の近くに住んでいたいんだよ。村長にはそう伝えたいし、村で会合を開いて話し合って、プノンペンの政府に手紙も書いたんだけど。ほんとうにどうすればいいのかねえ。

もどいて！
セサン下流2ダム
P54



ジム・ソッキアーさん

セサン郡クパールロミーア集合村ロミーア村在住。1969年に隣村で生まれる。ブノン族。農業と漁業を営む。2006年からロミーア村の村長。39才。5児の父。

2005年から毎年ひどい洪水が起こるようになってきました。水は7日以上も引かず、水位がとて高く、この家の床すれすれまで水が上がって来ました。雨が降らないのに、水位が上がっていくのを見たこともあります。なぜだかわかりません。

川の水は、悪くなりました。ぶあつくて青い藻が水面に浮かんでいることがあります。水も濁っています。村びとが水を使うときは、川辺の砂地を掘り、そこから水を汲んで、さらに煮沸しています。川の水を直接飲むと、病気になったり、問題が起こるんですね。

魚も減りましたよ。川底にはえる藻とか、きのことか、魚の食べるものがなくなりました。藻はわたしたちも籠いっぱい集めて食べていたんですがね。今では、まったく採れません。河岸も崩れているところがあります。

村びとはみんな(セサン下流2)ダムのことを心配しています。ダムの所有者は村びとにきちんと補償を支払うべきです。十分な広さの代替地や墓なども補償にふくめるべきですよ。わたしたち少数民族には大きな土地が必要なんです。もしダムができたら、わたしもすべてを失うことになります。家も土地も野菜も、ぜんぶです。

しかし、正直言つて、補償はきちんと行われないうえ、気がしてきます。例えば、代わりの家を補償すると言ってますが、この家は約20平方メートルで、補償でもらえるのは、10平方メートルの家だけです。残りの10平方メートルは現金で補償されることになっています。しかも、これは単なる口約束で、なんの証拠もありません。今、悩んでいます。どうしたらいいかわかりません。ちゃんと補償がなされるとはどういう思いえない

んです。こんど政府に要望書を出すつもりです。きちんと補償が行われ、村びとたちが納得したうえで、移転が行われるように求めなくては。

ベトナムの調査団とは話したことがあります。村を引き払う必要があることと、あと、補償内容について言いわたされました。調査団は、「資産はぜんぶ補償する」と言いましたが、わたしは信じていません。具体的に約束すべきです。それに、建設工事が始まるまえに補償をするべきです。ダム建設が先だと家や家財道具を運ぶのがたいへんだからです。

あと、ダムの水門をはじめ閉める時期は、7月か8月にしてもらいたい。なぜなら、5、6月は魚が川をのぼって産卵する時期だからです。その時期に水門が閉まっていると、魚が川を遡上できません。産卵の時期は水門を閉めてもいいですが、11月には魚が川をくだりはじめるので、再び開ける必要があります。

それだけやっても、次の年には、魚がまったくいなくなるでしょうね。魚にはダムは乗り越えられませんから。





ガン・バーン さん

1973年、セサン郡クパール口
ミーア集合村口ミーア村生まれ。
農業を営む。35歳。4児の母。

兄弟といっしょに農業をしてるわ。男は土を耕して、女は稲や野菜を育てるの。チャムカもちろんやってる。3ヘクタール(3万平方メートル)くらい土地で育てているのは、カシューナッツ、トウガラシ、なす、バナナ、きゅうり、米、さとうきび。女はそのほかに、家で豚や

にわとりに餌をやったり、ご飯をつくったりするわ。森に行つてきのこやくだものを集めるのも好き。しあわせな気持ちになれるの。女の人は、家をきれいにしたり、ご飯をついたり、子どもの世話をしたり、ものを売ったりするのに向いているんじゃないかな。男の人は森でものを集めたり、漁が得意よね。子どもを育てるのは妻と夫の共同作業よ。

ベトナムにダムができたこと、知っているわ。ひどい洪水がよく起こるようになった。水が床まで来たこともあるのよ! そのとき、家財道具も舟も失つたし、みんなお腹をこわしたりして病気になるわ。牛や水牛も溺れちゃった。そこらじゅうに水が来たから、動物が逃げられる場所がなかったの。2006年と2007年のことよ。去年の7月と8月にも洪水が起こったの。今年もあるんじゃないかと心配してる。むかしから洪水はあったけど、普通は4日くらいしたら水が引いた。今は2週間も水が残るわ。それにこの4年くらい、水位が上がったり下がったりするの。雨も降らないのに上がったり水のせいで人間も動物も病気になるし、河岸も崩れてる。わたしも川の水をそのまま飲むとお腹をこわす。魚も減つたわよ。

セサン下流2ダムのこと? もちろん知ってるわよ! 今でも洪水があるのに、ダムができたら、たいへんなことになるわ。それでもここから動きたくない。引越したら生活できなくなるわ。他の土地でどうやって生きてらいいのかわからない。ラタナキリにも親戚はいるけど、引越すことは考えられないわ。子どもときからここで育つたんだもの。この人たちは、みんなわたしの部族の人たちだし。

ダムについてはじめて聞いたのは2007年のこと。(現地で活動するNGOの)CEPA

から聞いたわ。すごく怖くなって、何もできないと思つた。「みんな貧しくなる」思つた。ああ、ダムができなければいいのに!

政府やNGOは、わたしたちがきちんとした補償をもらえるように、助けてくれるべきだわ。家だけじゃなくて、ココナツ、マンゴー、タマリンドの木も、ぜんぶよ。カンボジアでふつう、どんな補償がされてるか知ってるかって? 聞いたことないわ。ここにはテレビもないもの。

このまえベトナムから調査団が来て、「雨季はここに住んじやいけない、洪水になるから」って言ったのよ。わたしは「ダムはいやだ」って言ったの。そしたら、こう言ったのよ。「カンボジアの国全体がダムを求めている。ダムがほしくないのは、きみだけだ。反対したいならフン・セン首相に話しなさい。もしきみがここにとどまつて問題が起こっても、われわれは対応しませんよ」って。そんなのひどいわ! 不公平だし、正義もなんもありやしない! 誰も助けてくれないなら、ここで死ぬのを待つだけよ。村のみんなも動きたくないって言ってるわ。どうしていいかわからないの! 反対したってダムはできてしまうわ。

きつと
きつと

カンボジアへの影響
スレボック川の場合

P68

きつと
きつと

セサン下流2ダム

P54

田んぼとチャムカで食ってる。くだものや野菜は、家族の分だけ作ってる。市場で売るために、カシューナッツを育てはじめたけど、このまえの洪水でだめになった。むかしは毎日漁にも行ってたけど、今年から止めた。日に10キロは捕れてた魚が、今じゃ5、6キロしか捕れないからな。今は村の漁師から魚を買って、よその村で売ってる。

魚が減った理由？ 密漁が広まってるし、川が変わったからだろう。川は、2005年から水位が上がったり下がったりするようになった。乾季でも水が上がるときがある。延縄を朝仕掛けると、夕方には水の上に出てしまってることもある。

河岸も少しずつ崩れてきてる。川から20メートルくらいの土地が陥没したところもある。野菜を作ったり、バナナの木があるところだったんだけどな。水位が上がったり下がったりするせいで、淵も埋まってきてる。漁をしてるとわかるんだ。糸の端に浮を付けて、もう一方の端に石を結んで淵に沈める。むかしは15メートルの糸がいったのに、今じゃ9メートルくらいで十分だ。川は全体的に浅くなつたよ。

むかしは乾季の水が澄んでいたのに、今じゃ白っぽい。むかしは川の水をそのまま飲んでたけど、今は井戸があるからその水を使ってる。去年から子どもが川の水を飲んだり、泳いだり



トオン・モックさん

1977年、セサン郡クパールロミアア集合村ロミアア村生まれ。ブノン族。農業と漁業の仲買を仕事とする。30才。

すると、目が赤くなったり、下痢をするようになった。家畜も川の水を飲むと、腹や喉が腫れて下痢をする。それに、洪水のあとにはえた草を家畜が食べると病気になる。

ベトナムのダム開発？ 知らねえな。新しくできるダムのことは知ってるよ。ベトナムから調査団が来て、立ち退かなくちゃいけないって言ってた。

引越したくなんかねえよ。田んぼもチャムカも失うことになる。精霊のための儀式だつてここでしかできないだろ。立ち退きたくなんかねえよ。田んぼや家はどうするんだ？ どうやって家族を養うんだ？ それに、そもそもどこへ行行っていうんだ？

いつ立ち退かなくちゃいけないのか、知らん。どうしたら問題が解決できるかも、わからん。この村を代表してブノンペンで政府と話したやつがいる。でもろくな返事をもらえなかった。村長も、役人も、NGOも、みんなでダムを止め

てくれよ。

おれも両親も、この村で生まれ育った。川でも砂地でも、よく遊んだよ。かわうそといっしょに泳いだり。しあわせな子ども時代だったな。結婚は20才のとき。3年間親といっしょに住んでから、小さな小屋を建てて、こんどは2人で住んだ。金を貯めて、(屋根に使う)トタンとか買ってな。村の人たちといっしょに建てたんだよ。自分の家を建ててよかったよ。できたときは、うれしかった。

でも見てくれよ。まだ床ができてないだろ。作業を続けようと思つたけど、ダムができるって聞いてから、どうしようか迷ってる。どうなるか不安だよ。ダムは「開発」だつて言うやつがいるけど、おれはそうは思わないね。いっしょけんめい働いて建てた家が、これでおじゃんさ。おれの人生で一番うれしかったのは、むかしは貧乏だったこのおれが、こうして家を持てるようになったこと。自分で自分を「開発」したんだ。でも今はダムの話がある。不安だ。子どもは3人いる。いい教育を受けさせてやるのがおれの夢だよ。

もっと詳しく！

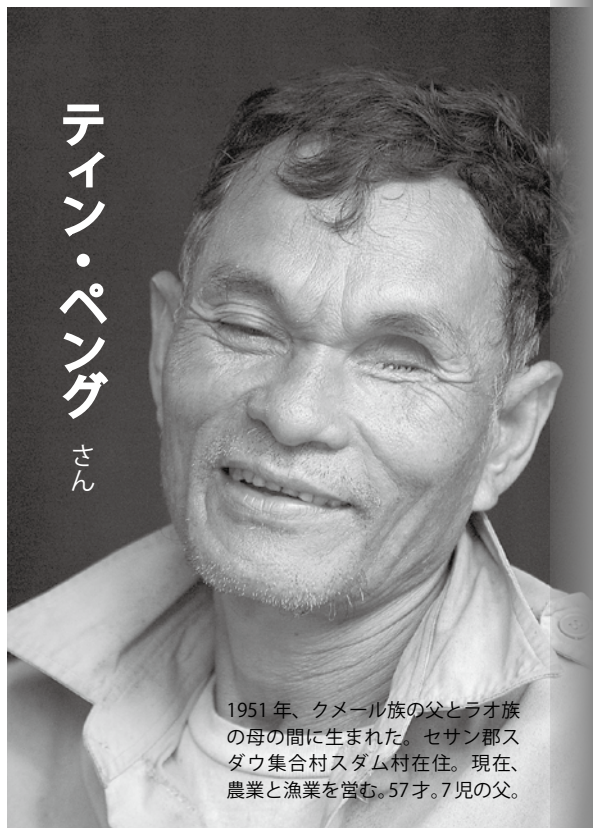
セサン下流2ダム

P.54

もっと詳しく！

カンボジアへの影響
スレポック川の場合

P.68



1951年、クメール族の父とラオ族の母の間に生まれた。セサン郡スタウ集合村スタム村在住。現在、農業と漁業を営む。57才。7児の父。

ティン・ペング さん

田んぼとチャムカをやってる。家族の食う分だけな。漁は月に1、2回しか行かねえ。1回の漁に2、3日かけて、捕れるのは、20キロから30キロくらいだな。まあ下手な漁師じゃあねえよ。むかしは1日で50キロから100キロあげたけどな。1匹30キロ以上もあって、胴回りは3、40センチ、体長1メートル半もあるやつが、毎日捕れた。むかしの話さ。密漁がはやりはじめてからは、そんなの捕れねえし、魚の数も減ったよ。最後にあんなでっかい魚が捕れたのは、戦争が終わった数年後、1984年から1985年ごろだった。

おれが生まれたのは1951年だ。小さな島で生まれた。子どものころは、親を手伝って水汲みをしたり、家畜の世話をしたり、畑で働いたりした。15才のとき、はじめて漁に行ったのを覚えてるよ。棒で魚を刺して捕まえた。たくさん捕れてうれしかったな。水をのぞき込むと魚がたくさん泳いでいるのが見えた。若いころは、兵士になりたかった。戦時中だったから国を守りたかったんだ。でも学校を終えてから、坊さんの修行に行った。兵士と正反対の道だった？ そりゃ信仰心があったし、親のためよ。親に感謝するための方法のひとつなん

違法な漁をするやつらは、でかい網で根こそぎ捕るんだ。電気ショックや爆弾も使う。支流を堰き止めて魚を囲つちまったり、毒薬を使うやつもいる。毒薬で死んだ魚を人間が食べても平気かって？ 平気だよ。密漁はほんとにひどいぜ。ほとんどがよそものだ。5、6人いる。村のみんなで見回りをするようになってるから、だいぶん減ったけどな。

だ。3年修行して、十分やったなあと思ったから寺を出た。ふつうの人だったら、漁もできるし畑もできるだろ。でも、お坊さんはお寺でお経を読む毎日なんだぜ。

27才で結婚した。遠くの村の女で、一目惚れだった。あいつの村で結婚して、義理の両親と1年間同居してから、この村に引っ越してきた。あいつのことは、今でも大好きだよ。そのころには、おれの親も島からこの村に移ってた。でもボル・ポト時代に別の場所に移動させられた。そこで親は死んだよ。おれも集団で農作業をさせられた。ボル・ポト時代が終わって、おれはまたここに戻ってきた。

今のおれの楽しみは、家具を作ることかな。舟も作れるぜ。村のテレビでカラオケビデオを見るのも好きだ。音楽は好きだよ。自分は歌わないけない。おれが子どものときとくらべて、川は変わったかって？ 河岸の侵食がすごいよ。舟のたてる波のせいだと思う。1999年から崩れはじめて、どんどん向こう岸が離れていく。むかしは島からこつち岸まで100メートルしかなかったのが、今は200メートルはあるな。この2年は大丈夫だけど。あと、川に浮く藻が増えたな。



トン・シー さん

1945年生まれ、北サマ郡スタム
ウ集合村スタム村在住、63才

むかしは農業をしてたけど、今は家でご飯をつくってる。今年63才になったから、生まれたのは何年かなあ、計算してみて。1945年かい？ 子どものときは、その島に住んでたの。河岸から見えるあの島だよ。学校に通ったことあるよ。しあわせな子ども時代だった。

結婚したのは20才のとき。お寺で輪になって踊っているとき夫に出会ったの。結婚式は花婿の家がひろくの。結婚してしばらくは、わたしの親と住んでいた。農地や水牛を夫の親とわたしの親からもらって、チャムカと田んぼを耕して、川で漁をして、家族を養った。5日農業したら、5日漁をする毎日だった。子どもは6人いたの。でも5人病気で死んで、娘1人だけ残った。今いっしょに住んでいるよ。孫は7人いるよ。

戦争時代はいい思い出がない。村から村へと逃げまわって、いつもびくびくしてた。でも今

た。今は便利な道具があるよねえ。今の方がいいよ。むかしもマイクやスピーカーがあったら、よろこんで祭りで使ったよ。

むかしは、手漕ぎ舟だったのよ。バイクとかモーターボートなんて聞いたこともなかった。島からストウントレンの町まで一晩かかったの。今なら朝出発すれば、村に戻ってお昼ごはん食べられるけどね。若い人のなかにはストウントレんで勉強する人もいるし。先生になる人もいるのよ。

人間がむかしとくらべて変わったかって？ むかしの方がみんな親切だったよ。お金に関係なく魚やものを分け合った。今はあまったものがあれば、すぐ市場に売っちゃうよねえ。むかしは村でお金を使うことなんてなかったんだよ。なんで変わったかって？ むかしはなんでも安かったの。動物を売ったとしてももうけは少なかったの。でも今はものが高いでしょ。

は、ほんとうにしあわせなの。しあわせな、いい時代になったもんねえ。どんな仕事についてもいいし。むかしは米を作らないと死ぬしかなかったのよ。

むかしと今の文化の違い？ あんた、むかしは、マイクもスピーカーもなかったのよ！ 祭りのときは太鼓を叩いて歌ったの。電気もなくて、たいまつだった。

川の変化ねえ。むかしは舟いっぱい魚が捕れた。プラホックをたくさんつくったわ。今は魚の数が減ったわねえ。あたし自身は漁に行ったことはない。夫が行っていた。わたしは家でご飯つくって、子どもの世話してたの。

ほかに変わったこと？ ないよ。朝の川はきれいよお。風があつて、涼しくて。川を眺めるにはいい時間なの。心が洗われるよ。

川には精霊が住んでいる。竜とかワニとか、人を殺すことがあるの。川を渡るとき、舟が沈んで死んじゃうの。死体上がるのは3日後で、体が黒くなってる。竜が殺したのよ。もちろん信じてるよ。先祖が竜を見て、それが言い伝えになったの。祭りのとき、竹で竜の形の舟に食べものをのつけて、火をつけて川に流すの。これをしないと竜は人をとって食うの。

村で一番好きな場所はお寺。お坊さんの話を聞くのが好きなの。人が死んだあとどうなるかって？ 人が死ぬと3日間遺体を置いて、それから川の向こうで焼く。そういう意味じゃないの？ 死後の世界の話？ 死んだ人の魂は川の向こうに残るの。天国と地獄、あるのかねえ。わかんないよ。幽霊は川の向こう側で暮らしてるの。いい人も悪い人も、みんな。そうよ、たくさん幽霊があそこにいるの。見たかったら、そこで一晩過ごせばいいよ。怖い？



1938年、ラタナキリ州ブ
エンサイ郡生まれ。ラオ族。
以前は、農業・漁業を営ん
でいた。きこりをしていた
こともある。元祭司。セサ
ン郡スタウ集合村スダム村
在住。70才。

いかにも、わしは祭司でしたよ。精霊と仏様、両方を信じて、両方に従っています。村では病気になる、精霊の仕業であると信じております。精霊に祈りを捧げると治るんです。

精霊にも二種類あります。ひとつは「家の霊」です。家に住んでいた人が死んで霊になったら、家の霊になります。先祖や親戚の霊です。

もうひとつは「外の霊」です。この精霊は自然のなかに住み、森や大きな木に宿っています。見ることはできません。間違ったことをしたり、精霊に出会って触れてしまうと、病気になるます。精霊に出会うのは運がないときです。崇めると、樹木が揺れたり、ものが落ちてきたり、もの音がしたりします。

それから、どの村にもひとつは強い精霊がいます。この精霊は動物に姿を変えることができ

ます。叩こうとしても、どうしても叩けない動物がいたら、それはこの霊です。この霊は村を守ってくれます。また、にわとりなど食べものを手に入れるために、村にわざわいを起こしたりします。村ではこの霊のために島に小さな祠（ほこら）を建てています。毎年この霊に祈りを捧げる儀式を行います。これを怠ると、村全体が病気になるます。

水に宿る精霊のことを、わしらは「水の精霊」と呼びます。竜は水の王です。竜にも二種類あります。ひとつは「竜神」で、もうひとつはふつうの竜です。竜神は人びとを治めていて、人間に姿を変えることができます。ふつうの竜は姿を変えられません。先祖は竜を見てわしらに伝えました。竜神はときどき川に現れて、人間の姿で水浴びをするそうです。

竜は人を殺すことがあります。

例えば、川で、みんなで遊んだり、水浴びをしていて、気がつくといつの間にか、ひとりいなくなっている。こういった場合は竜に殺されたと考えます。

川で死んだ人も、水の精霊になります。川に水浴びに行くと病気になることがあります。これは精霊の仕業です。お供えものがほしいのです。その場合、

お祈りをしなければなりません。

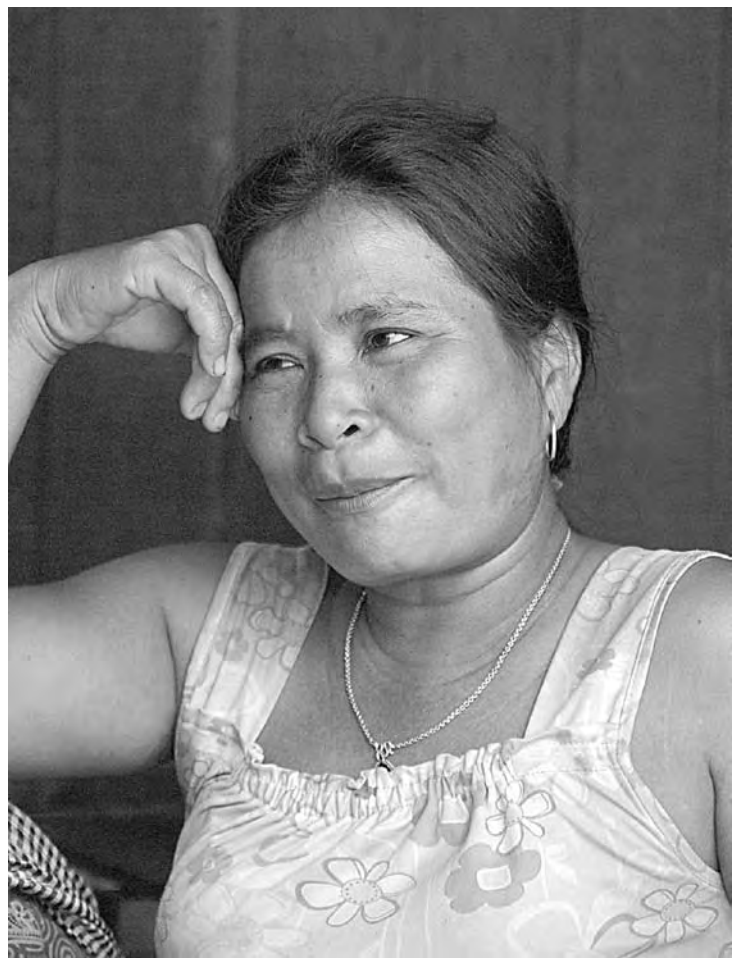
「森の精霊」も森で死んだ人たちです。と言っても、死んだ人みんなが森の精霊になるわけはありません。木から落ちたり、地雷を踏んだり、森で殺されたり、といった死に方をした人が森の霊になります。森の神は霊よりも力があります。森の神はふつうの森には住んでいません。大きな森にだけ住んでいます。村の近くには大きな森がないので、近くにはいません。

プチュンベン（カンボジアの盆）は霊の大きなお祭りです。あの世から霊が戻ってくるのです。

病気の理由が家の霊なら祈りを捧げます。外の霊なら祈とう師に儀式をしてもらいます。村には除霊ができる祈とう師が2、3人います。わしは祈とう師ではありません。祈とう師と祭司は違うものです。

祭司にも3種類あつてですね、寺の管理・運営をする祭司、結婚式をとりおこなう祭司、そして葬式を取りしきる祭司です。村には、それぞれの祭司がいます。わしは寺の管理・運営をしていました。祭りやお供えものの準備が、わしの仕事でした。

どうして祭司になったかつて？ 年よりで、正直なわしに祭司になつてほしいと、村全体が会議で決めたんです。でも、23年も祭司をやつて年をとつたので、数年前に引退しました。



パート・チョービーさん

1963年生まれ。ラオ族。セサン郡
スダウ集合村スダム村在住。45才。

わたしは隣村で生まれましたが、ポール・ポト時代にここに移られました。ここで暮らす人のなかには、集団で農作業に就くようにと移住させられた人もたくさんいます。わたしは田んぼの縁に土を盛るために土を運ばされました。たいへんな時代でした。ポール・ポト時代が終わって、1979年に結婚しました。夫はこの村の出身です。

2005年、洪水に襲われて、田畑がだめになりました。チャムカはひとつが村の外、もうひとつは村のそばにあるんですが、両方ともだいなしになりました。あの年は、どうやったら子どもを食べさせて、生きのびられるのか、とても心配でしたよ。商売のやり方もわからないし、米がないとなにもできないですから。でもさいわいなことに牛を売って、主人の給料もあつたので、なんとかまりました。

むかしと今の生活の変化ですか？ むかしはたくさん魚が捕れても、市場に売ることにはなかつたですねえ。となり近所で分け合ったものですよ。でも近ごろは、魚を見つけるのがむかしよりたいへんになりました。

それから河岸が島から遠くなってきましたね。むかしは舟なしで島まで行けたんですけどね。特に雨季に河岸の近くで舟が波をたてると岸の土が崩れるんです。

田んぼとチャムカを耕して暮らしています。主人は漁に行つて、家族の分だけ魚を捕まえています。わたしは漁には行きません。米、牛、水牛を売っています。

子どもは息子が4人、娘が3人います。1人は死にました。下の子は9才、上は26才です。息子は2人、もう独立しました。1人はストウントレンの高校に通つてます。いい職に就けるように勉強してほしいと思っています。

村での女の仕事は、家畜の世話、酒作り、農

作業です。男は農作業と漁業が仕事です。子どもを育てるのも母親の仕事です。ものを売るとも女の仕事ですね。女の方がひとのことを理解したり、ものを買う気にさせるのがうまいからわたしも得意な方です。おもに米と、たまに主人が捕つて、あまつた魚を売っています。うちが米をたくさん作っていることは、村でみんな知ってるので、商人が村に米の買い付けに来ると、みんなわたしの家に来るように言ってくれるんですよ。